

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：33109

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04885

研究課題名(和文)キー・コンピテンシーの「相互にかかわりあう」能力を育成する道徳授業モデルの開発

研究課題名(英文)Development of a Moral Lesson Model to Foster the Key Competency of "Interacting with Each Other"

研究代表者

中野 啓明(Nakano, Hiroaki)

新潟青陵大学・福祉心理学部・教授

研究者番号：40237350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、キー・コンピテンシーにおけるカテゴリー2「異質なグループにおいて、相互にかかわりあうこと」に関する能力を育むための道徳授業のモデルを探究した。具体的には、道徳授業における子ども相互の交流場面における教師の授業方法の分析を行うとともに、意見交流場面でのICTの活用方法を探った。その結果、子ども相互の交流場面において、小学校低学年でも活用可能なICTの活用方法として、1)子どもがワークシートへ自分の考えを記入する、2)クラウド上のフォルダに写真をアップロードする、3)友達の写真を見て自分の考えと比較する、4)新たな自分の考えをワークシートに記入する、という、というステップを提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、先行研究においては未開拓の領域であった、キー・コンピテンシーにおけるカテゴリー2「異質なグループにおいて、相互にかかわりあうこと」に関する能力を育むための道徳授業モデルの開発を行った。特に、道徳授業における子ども相互の意見交流場面でのICTの活用方法を探った。この研究成果に基づき、研究最終年度には、小学校の道徳科におけるICTの活用方法に関する書籍を刊行した。

研究成果の概要(英文)：We explored a moral lesson model to foster the key competency of interacting in heterogeneous groups, which is defined as Competency Category 2 in OECD study: "The Definition and Selection of Key Competencies". More specifically, we analyzed how teachers conduct their moral class in which children interact with each other for exchanging their opinions, and examined how ICT can be used in such situations. As a result, we propose the following steps as a method of ICT utilization in classroom interactions between children, which can be used even in the early grades of elementary school: 1) have children write their ideas on a worksheet, 2) have children upload photos to a folder shared by the class on the cloud, 3) have children look at their classmates' photos in the folder and compare them with their own ideas, 4) have children write their new ideas on the worksheet.

研究分野：教育学

キーワード：道徳科 キー・コンピテンシー ICTの活用 クラウドの活用

1. 研究開始当初の背景

OECD の PISA (Programme for International Student Assessment) 調査結果及び OECD の打ち出したキー・コンピテンシー (key competencies) は、平成 20 (2008) 年度版以降の学習指導要領に影響を与えていることは、各種の中央教育審議会 (以下、「中教審」と略記する) 答申等において、確認することができる。

中でも、平成 26 (2014) 年 10 月の「道徳に係る教育課程の改善等について (答申)」では、「道徳性」を「道徳に係る内面的な資質・能力」としてしている。また、中教審による平成 27 (2015) 年 8 月の「論点整理」、平成 28 (2016) 年 8 月の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて (報告)」においても、育成すべき「資質・能力」の三つの柱としての「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を挙げている。こうした「資質・能力」を重視するという方向性は、コンピテンシーを重視するという世界的な潮流と合致しているとみることができる。

OECD が打ち出したキー・コンピテンシーは、以下の三つのカテゴリーから成り立つ。[1]

カテゴリー 1 : 相互作用的に道具を用いる

カテゴリー 2 : 異質なグループにおいて、相互にかかわりあう

カテゴリー 3 : 自律的に行動する

このキー・コンピテンシーの一部を調査対象としているものが、PISA 調査である。[2] PISA 調査のリテラシーは、読解リテラシー (reading literacy)、数学的リテラシー、科学的リテラシーに分類されるが、研究代表者が行った先行研究 [3] を除いて、道徳授業の中で、読解リテラシーの育成に焦点化した研究は見出すことができない。さらに、道徳授業の中での読解リテラシーと、キー・コンピテンシーのカテゴリー 2 「異質なグループにおいて、相互にかかわりあう」との育成とを関係づけた先行研究も、積極的には見出すことはできない。

2. 研究の目的

OECD のキー・コンピテンシーの育成を目指した道徳授業モデルの開発研究は、先行研究において積極的には見出すことはできない。そこで研究代表者が先行研究 [3] において開発してきた、「『二つの意見』を用いた道徳授業」をベースにしながら、キー・コンピテンシーを育てる道徳授業モデルの開発を目指すこととした。ここでいう「『二つの意見』を用いた道徳授業」とは、「連続型テキスト」としての読み物教材 (資料) を提示するとともに、教師から道徳的価値を含む対立した「二つの意見」を提示することによって、テキストの熟考・評価を促すという、読解リテラシーを育むことを目指した道徳授業モデルである。

研究代表者が行った先行研究においては、「二つの意見」を用いた道徳授業が、小学校低学年から中学校まで実践可能であること、「行動面」だけではなく「心情面」を問う場合にも使用可能であること、図表等の「非連続型テキスト」の教材 (資料) にも使用可能であること、考えること・書くことが苦手な子どもも授業に参加しやすいこと、が明らかになってきた。その一方で、1) 子ども相互の交流場面での教師の授業技量をいかに高めるか、2) 「二つの意見」の作成過程の細分化、3) 平成 30 年度以降に供給開始される教科書教材への適用可能性の検証、に課題があることも明らかになってきた。

本研究では、研究代表者応募者が先行研究において開発してきた「二つの意見」を用いた道徳授業モデルを発展させ、以下の三つの研究課題に取り組むことによって、キー・コンピテンシーのカテゴリー 2 「異質なグループにおいて、相互にかかわりあう」能力を道徳授業で育むための授業モデルの開発を目指した。

(1) 道徳授業における子ども相互の交流場面での教師の授業方法の分析

(2) 「二つの意見」の作成過程の細分化と WEB 上での公開

(3) 教科書教材への適用可能性の検証

3. 研究の方法

研究目的で述べた研究課題を達成するため、次の 3 つの柱となる研究計画・方法を立案した。

(1) 道徳授業における子ども相互の交流場面での教師の授業方法の分析をするため、文献調査を通じた理論的考察、授業の参与参観を行うとともに、ICT の活用も含めた実験授業を通じて検証する。

(2) 「二つの意見」の作成過程の細分化と WEB 上での公開を進めるため、ワークショップを通じて「二つの意見」の作成過程を明確化し、作成された「二つの意見」とともに WEB 上で公開する。

(3) 教科書教材への適用可能性を検証するため、各社の教科書を分析するとともに、新規教材に基づく実験授業を実施する。

4. 研究成果

(1) 研究初年次の平成 29 年度は、以下の研究を行った。

第1に、道徳授業において「相互にかかわりあう」場面として、道徳授業における子ども相互の交流場面を取り上げ、教師の授業方法の分析を行った。具体的には、既存の道徳授業論に関する国内外の文献を収集するとともに、「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)」において「質の高い指導法」として例示されている「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」等の道徳授業に関する公開授業や校内研修の場に参加した。その際、道徳授業における「話し合い活動の組織化」「意見交流の組織化」「討論・討議の組織化」という教師の授業技量の内実という視点から、研究協力者と共に問題点の省察を行った。こうした省察成果等にもとづきながら、平成29(2017)年11月19日に神戸親和女子大学において開催された日本道徳教育学会第90回大会において、「道徳授業における交流場面の分析」と題した自由研究発表を行った。また、この自由研究発表等の研究成果に基づきながら、平成30(2018)年2月に発行された『敬和学園大学研究紀要』第27号において、「道徳授業における交流場面の分析」と題する研究論文を発表した。

第2に、教師用と子ども用のタブレット端末を複数台購入し、道徳授業の意見交流場面でのICTの活用方法を探った。具体的には、研究協力者を対象とした研修会を開催し、実際にタブレット端末インストールした複数のアプリを使いながら、意見交流場面で使用可能と考えられる具体的な活用方法のアイデアを探った。

第3に、定番教材をもとにグループで指導案を作成するワークショップと、研究協力者による講演会の2部構成からなる道徳教育研修会を開催し、30名程の教職員から参加していただいた。

(2) 研究2・3年次の平成30(2018)年度・令和元年(2019)度にかけては、平成29(2017)年度の研究を基に、以下の研究を行った。

第1に、平成29年度の研究を補完しながら、道徳の授業における子ども相互の交流場面における教師の授業方法の分析を行った。具体的には、道徳授業に関する研修会や公開授業等に参加し、道徳授業における「話し合い活動の組織化」「意見交流の組織化」「討論・討議の組織化」という子ども相互の交流場面での教師の授業方法の実際が、「二つの意見」を用いた場合とどのように異なるか、研究協力者と共に分析した。

第2に、子ども用のタブレット端末を概ね2人に1台使用できる環境を整えるとともに、先行研究に基づきながら道徳授業の意見交流場面におけるICTの活用方法を探った。その上で、平成30(2018)年7月1日に文京学院大学で開催された日本道徳教育学会第91回において「道徳授業における意見交流場面でのICT活用方法の構想」と題した自由研究発表を行った。その際、子ども相互の協働的な学習場面でのICTの具体的な活用方法として、1)ワークシートに記入したものを写真で撮影し、グループやクラスで共有する、2)クラウド上のプラットフォームに自分の考えを入力し、グループやクラスで共有する、という2種類の方法が考えられることを明らかにした。こうした研究を基に、「二つの意見」を用いた道徳授業モデルに基づいた意見交流場面でのICTの活用方法を、研究協力者による実験授業を通じて検証を続けた。

第3に、教科書教材に基づいた「二つの意見」を作成するワークショップを開催した。具体的には、小学校では各社の教科書に共通する教材を、中学校では「私たちの道徳」に掲載されている読み物教材を抽出し、3～4人程度のグループで主発問を考えたと「二つの意見」を作成するというワークショップを平成31年3月に開催し、50名程の教職員から参加していただいた。

(3) こうした研究を行ってきたが、実験授業の数等が十分ではないこと等の理由から、研究期間の延長を行うこととした。

しかし、研究機関の延長を行った令和2(2020)年度は新型コロナウイルス拡大の影響もあって、研究活動に制限があったため、令和3(2021)年度も再延長することとしたが、学校現場において多くの実験授業を行ったり、対面形式でのワークショップを開催する等、従前のような研究活動を行うことができたとは言えない状況であった。

このような状況下に置かれた令和2・3年度ではあったが、今までの研究成果をもとに、日本道徳教育学会第96回(2020年度秋季)大会や日本道徳教育学会第98回(2021年度秋季)大会での学会発表を通じて、小学校低学年であっても、子ども相互の交流場面におけるICTの活用方法として、

- 1)子どもがワークシートへ自分の考えを記入する、
- 2)クラウド上のフォルダに写真をアップロードする、
- 3)友達の写真を見て自分の考えと比較する、
- 4)新たな自分の考えをワークシートに記入する、

というステップを提案してきた。

また、これまでの研究成果に基づきながら、実験授業を行っていただいた研究協力者の先生方とともに、道徳科の授業でICTを活用した書籍[4]を刊行することができた。

<引用文献>

[1] OECD, “The Definition and Selection of Key Competencies: Executive Summary”, 2005.

[2] 松下佳代編著『<新しい能力>は教育を変えるか』ミネルヴァ書房、2010

- [3] 「PISA 読解リテラシーを育成する道徳授業モデルの開発研究」(JSPS 科研費 26381288)
- [4] 中野啓明編著 『GIGA スクールに対応した小学校道徳 ICT 活用 BOOK』明治図書、2021

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中野啓明	4. 巻 2018年秋号
2. 論文標題 生活・総合のこれから－「ハイブリッド型の学習活動」の組織化－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 そよかぜ通信	6. 最初と最後の頁 2-3ページ
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野啓明	4. 巻 第18号
2. 論文標題 「深い学び」をいかに具現化するか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新潟県生活科・総合的学習研究会会報	6. 最初と最後の頁 9ページ
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野啓明	4. 巻 第27巻
2. 論文標題 道徳授業における交流場面の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 敬和学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 109-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中野啓明	4. 巻 第80号
2. 論文標題 幼・小連携の道徳教育－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係から－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもと授業	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野啓明	4. 巻 2021年5月号
2. 論文標題 道徳科とデジタル-タブレット端末を用いた道徳科の授業例 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小学教科通信 2021年5月号 ウェブ版	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野啓明	4. 巻 61巻6号
2. 論文標題 Q&Aでまるわかり! GIGAスクールに対応した道徳ICT	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 道徳教育	6. 最初と最後の頁 8 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野啓明	4. 巻 62巻5号
2. 論文標題 1人1台端末を活用した道徳授業のつくり方-Google Workspaceのさらなる活用を-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 道徳教育	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 中野啓明
2. 発表標題 「二つの意見」を用いた道徳授業の提案(3) -図表等を用いた「非連続型テキスト」を教材として-
3. 学会等名 日本道徳教育学会 第89回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中野啓明
2. 発表標題 道徳授業における交流場面の分析
3. 学会等名 日本道徳教育学会 第90回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中野啓明
2. 発表標題 道徳授業における意見交流場面でのICT活用方法の構想
3. 学会等名 日本道徳教育学会 第91回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中野啓明
2. 発表標題 道徳授業における意見交流場面でのICT活用方法の研究(1)
3. 学会等名 日本道徳教育学会 第93回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野啓明
2. 発表標題 道徳授業における意見交流場面でのICT活用方法の研究(2)
3. 学会等名 日本道徳教育学会 第96回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中野啓明
2. 発表標題 道徳授業における意見交流場面でのICT活用方法の研究(3)
3. 学会等名 日本道徳教育学会 第98回大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 齊藤勇紀・岩崎保之編著 中野啓明他著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ウエストン	5. 総ページ数 113ページ
3. 書名 保育の実践を支える理論と方法	

1. 著者名 齊藤勇紀・中野啓明編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ウエストン	5. 総ページ数 136ページ
3. 書名 保育を支えるカリキュラム・マネジメントの理論と実践	

1. 著者名 永田繁雄他編著 中野啓明他著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 258ページ
3. 書名 新道徳教育全集第3巻 幼稚園、小学校における新しい道徳教育	

1. 著者名 中野啓明編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 149ページ
3. 書名 GIGAスクールに対応した小学校道徳ICT活用BOOK	

1. 著者名 中野啓明・伊藤充編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大創パブリッシング	5. 総ページ数 146ページ
3. 書名 幼児教育の基礎を学ぶ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------